

東山観光改善へ団結

「3K会議」
設立総会

11月から本格始動

東山3K協力金会議の設立総会で、事業内容を確認する
協力会員ら（東山区役所）



京都市東山区の寺院や（観光・交通・環境）協力企業などが協力金を出し、魅力ある観光の町づくりを進める「東山3K

る会員が集まり、事業内容を確認した。

同会議は今年四月に設立総会を開いて事業を始める予定だったが、まとまった協力金収入がなかったことなどから設立が遅れた。同日現在で、清水寺や高台寺、地元企業や商店街など二十五の団体と個人が、計約千四百万円を出している。

設立総会には、協力会員や事務局の同区役所まちづくり推進課職員ら約三十人が参加し、事務局から事業内容の説明などを聞いた。

今後、「観光」では、トイレが不足している東

大路通付近を中心に、寺やホテル、コンビニなど十一カ所にトイレ貸し出しを求める。「観光トイレ」として、協力金からトイレの管理費用を支出。トイレの場所を知らせる看板も設置する。「交通」では、観光シーズンや寺の大きな催しなどの際、信号や案内標識が不十分な個所に交通誘導員を置き、渋滞緩和に取り組む。十月から来年九月までに延べ百二日、七百七十四人を配置する。「環境」ではごみ箱の設置などを検討する。

十月中に観光トイレの契約締結や看板の発注、交通誘導員の研修などを行うほか、協力に前向きな団体との交渉などを行い、十一月から本格的に事業を始める。